

対人魅力の研究

——他者評価に対する好悪感情と CPI 人格特性の
関連について——

三宅義和

1. 問題

斎藤は「対人感情の心理学」(1990)で対人関係の一連のプロセスにおいて対人感情が根本的な役割を果たしていることを指摘し、ある他者に対する感情が永続的か一過的であるかという観点から、対人感情を感情傾向 (sentiment) と情緒に分類した。情緒は、急激で短時間に終わる強い興奮を意味しているのに対し、感情傾向 (sentiment) は「比較的持続的で、情緒を引き起こす基盤となるような感情」と定義され (斎藤, 1990), Heider の言う心情と似たような概念であると思われる。Heider は、「対人関係の心理学」(1954)の中で、「心情は大まかにはポジティブとネガティブに分類されよう。ある人 (P) ともう一つの実体 (O) の間に好くという関係があるときポジティブな心情が、また嫌うという関係があるときにはネガティブな心情がある」として心情を一義的に好意-嫌悪の次元に帰している。確かに、感情傾向は複数の次元が見いだされるものの、われわれの日常生活において、好意-嫌悪の次元が、ある他者に対する態度形成の基本的要素であることは容易に理解されることと思われる。

また、対人魅力は「ポジティブとネガティブの次元に沿った他者に対する評価である」と定義 (Baron & Byrne, 1984) され、一般に多くの研究者によって、人に対する好意的または非好意的な態度とされている。先程も述べたよう

に、この態度を支えているのは、好意一の嫌悪次元を主とした対人感情であり、ある人がある他者から好意を受けやすいのはどういう条件なのかという問いを巡って、対人魅力や印象形成研究の中で議論が活発に行われてきた。斎藤(1990)は、これらの条件として、相手の人の生理的感情興奮度、相手の人の距離の近さ、相手の人の態度の類似性、自分の身体的魅力、自分の好まれる度合、相手の人を評価する程度、自分自身の自尊心の程度の七つの要因をあげている。また、印象形成は「情報量・相互作用が制限され、認知者一被認知者の相互関係も確立されていないきわめて限定された事態でのパーソナリティ認知である」と、高橋(1973)が定義している。ある人物に対する第一印象は、限られた情報を用いて形成された印象であり、その際用いられる情報は、非常にわずかな外見的特徴などからの類推によることが示唆されており、その人物のことを実際にはほとんど知らずに形成されるという点で、非常に特殊であることが言われている。身体的魅力が印象形成に及ぼす影響は非常に大きく、これらのことは多くの研究によって確かめられてきた(Walster, 1966; Dion, 1972, etc)。しかしながら、この要因は評価される側の統制不可能な条件である。初対面において、他者からよい印象を得ようとしたり、あるいは自己のどのような在り方が他者の自己に対する好意を作り出すかを考えた場合、自己の統制できるような要因を探り出す必要性に迫られるであろう。笹山(1990)によると、印象形成にとって感じのよい話し方は魅力的な外見と独立した要因であることが示された。Aronson(1965)は「ある一人(P)がもう一方の一人(O)を好きになるかどうかの主な決定因の一つは、その他者に関する行動の性質である。いく人かの調査者の示唆するところによれば、PがOの行動を“報酬”と感じたときに、PがOの事を好きになる傾向がある」と述べ、対人関係の相互作用における他者評価の側面を強調した。印象形成に身体的魅力が大きな要因として関わっていることは認められるが、初対面やよく知らない間柄における相手への評価はその後の対人態度に大きくかわかることは、日常生活からも容易に理解される。対人魅力における他者評価の側面に関する研究は、自尊感情説と自己整合説の対立的議論を中心に展開されてきたが、多種多様な他者評

価が対人魅力にどのような影響を及ぼすのかという研究は見当たらない。

そこで、本研究は、二者間における初対面の対人場面を想定し、自己像の性格的側面に関して、他者のどのような評価が、認知者の好悪感情の程度（好意度）に影響するのかを明らかにし、また、認知者の人格特性との関わりを検討することを目的とする。

2. 方 法

(1)被験者一体育会系および文化会系のクラブに所属する大学生計111名（男子58名、女子48名、不明5名）を対象に調査は行われた。

(2)手続き一自己像の他者評価に対する対人感情を問う質問紙を「対人認知に関するアンケート」と称し、初対面の人や互によく知らない相手から、人の性格や行動特徴をあらわす「ことば」で、本人の性格や特徴を指摘された場合、その本人が相手に対してどのような感情を抱くか、その好悪感情の程度について、五件法で評定を求めるものである。回答方法は、「良い感じがする」に＋2点、「少し良い感じがする」に＋1点、「どちらでもない」に0点、「少し悪い感じがする」に－1点、「悪い感じがする」に－2点、を与えた。予備調査の段階では、234個の「ことば」に対して評定が求められたが、被験者の負担を軽減する目的で、対語56語（28対）、単語52語を含む106個の「ことば」が本テストとして採用された。

人格特性の測定には、California Psychological Inventory を用いた（以下、CPI と略する）。CPI は、18の尺度を含み、それらは4つの尺度群としてまとめられている。すなわち、

第1群一心的安心感、優越性、自信の程度：①支配性、②社会的成就能力、③社交性、④社会的安定感、⑤自己満足感、⑥幸福感

第2群一社会化、成熟性、責任感の程度：⑦責任感、⑧社会的成熟性、⑨自己統制力、⑩寛容性、⑪自己顕示性、⑫社会的常識性

第3群一成就能力と知的能力の程度：⑬順応的な成就欲求、⑭自立的な成就

欲求, ⑮知的能力

第4群一知的な型および興味様式: ⑯共感性, ⑰融通性, ⑱女性的傾向, である。

(3)結果の処理

その人の性格や行動特徴をどのような「ことば」で語られた場合, 認知者はその相手に対してどの程度の好悪感情を抱き得るのかを知るために, 各項目の平均点の高い順番に並び変えを行った (Table 1. 参照)。

Table 1. [106語の平均値&最頻値&頻度]

order	No	word	mean	mode	-2	-1	0	+1	+2
1	13	明るい	1.495	+2	2	1	6	33	69
2	12	思いやりのある	1.486	+2	2	2	8	27	72
3	15	優しい	1.450	+2	2	0	10	33	66
4	17	寛大な	1.342	+2	2	0	13	39	57
5	60	さわやかな	1.333	+2	2	13	12	33	61
6	57	素直な	1.306	+2	2	2	8	47	52
7	44	親切な	1.270	+2	3	1	10	46	51
7	58	多才な	1.270	+2	1	2	12	47	49
9	18	陽気な	1.261	+2	1	2	13	46	47
10	47	有能な	1.243	+2	1	2	18	38	52
11	104	温和な	1.144	+1	1	2	18	49	41
12	61	おだやかな	1.135	+2	3	2	19	40	47
13	42	前向きな	1.117	+1	2	2	16	52	39
14	51	積極的な	1.054	+1	1	5	16	54	35
15	20	かしこい	0.973	+1	1	5	25	45	35
16	93	純粋な	0.946	+1	2	5	27	40	37
16	102	気さくな	0.946	+1	2	5	22	50	32
18	72	根性のある	0.901	+1	3	6	26	40	36
19	91	粘り強い	0.883	+1	1	6	27	48	29
20	1	柔らかい	0.865	+1	1	2	28	57	22
21	80	清らかな	0.856	+1	2	3	28	54	24
22	97	柔軟な	0.847	+1	1	3	29	57	21
23	53	自立的な	0.829	+1	1	6	33	42	29
24	4	外向的な	0.802	+1	1	8	27	51	24
25	85	社交的な	0.793	+1	1	6	30	52	22
26	55	敏感な	0.703	+1	1	7	31	57	15
27	56	開放的な	0.694	+1	1	5	33	60	12
28	89	勤勉な	0.649	+1	1	9	33	53	15
29	66	天才的な	0.604	0	1	9	42	40	19

order	No	word	mean	mode	-2	-1	0	+1	+2
30	65	素朴な	0.595	+1	3	9	38	41	20
31	22	まじめな	0.577	+1	0	8	41	52	10
32	21	楽観的な	0.568	+1	0	14	37	43	17
33	26	気の長い	0.514	+1	1	13	39	44	14
34	98	騒がしい	0.509	+1	4	8	38	48	12
35	24	鋭い	0.477	+1	3	16	36	37	19
36	83	思考的な	0.459	+1	1	12	39	53	6
37	77	道徳的な	0.450	0	0	10	48	46	7
38	68	繊細な	0.436	0	0	8	58	32	12
39	63	負けず嫌いな	0.378	0	4	11	45	41	10
40	33	革新的な	0.351	0	3	8	52	43	5
41	76	計画的な	0.342	+1	2	17	40	45	7
42	105	直観的な	0.315	0	1	10	60	33	7
43	74	大胆な	0.261	0	3	8	61	35	4
44	36	客観的な	0.234	0	5	12	55	30	9
45	70	おとなびた	0.225	0	1	16	59	27	8
46	87	合理的な	0.144	0	6	18	49	30	8
47	106	感覚的な	0.135	0	2	13	68	24	4
48	81	涙もろい	0.126	0	2	16	64	24	5
49	78	安定志向の	0.117	0	2	20	56	29	4
50	6	静かな	0.090	0	1	20	61	26	3
50	71	怖いもの知らずな	0.090	0	3	15	64	27	2
52	100	凝り性の	0.063	0	2	20	62	23	4
53	10	現実主義の	-0.054	0	2	31	52	23	3
53	45	厳格な	-0.054	0	4	25	58	21	3
55	7	お人好しの	-0.063	0	4	34	39	33	1
56	37	快楽的な	-0.090	0	5	28	55	18	5
57	73	珍しい	-0.099	0	7	21	61	20	2
58	79	感傷的な	-0.162	0	1	28	71	10	1
59	84	感情的な	-0.180	0	7	26	59	53	6
60	75	夢想的な	-0.189	0	4	31	61	12	3
60	82	抜け目のない	-0.189	-1	11	35	34	26	5
62	69	傷つきやすい	-0.207	0	5	33	53	20	0
63	38	理想主義の	-0.253	0	6	36	52	14	3
64	39	おしゃべりな	-0.291	0	8	33	54	13	2
65	9	禁欲的な	-0.342	0	8	31	65	5	2
66	8	主観的な	-0.387	0	9	42	45	13	2
67	67	頑固な	-0.424	0	9	43	48	8	3
68	95	哲学的な	-0.460	0	15	31	56	8	1
69	5	保守的な	-0.523	0	12	43	49	5	2
70	30	複雑な	-0.532	0	13	42	48	7	1
71	90	攻撃的な	-0.541	-1	15	45	37	13	1

order	No	word	mean	mode	-2	-1	0	+1	+2
72	11	無口の	-0.676	-1	16	52	36	5	2
73	2	単純な	-0.703	-1	21	52	23	14	1
74	34	騒がしい	-0.721	-1	17	53	34	7	0
75	101	飽き性の	-0.727	-1	17	56	28	8	1
76	31	軽い	-0.803	-1	23	55	24	5	4
77	59	利己的な	-0.811	-1	27	50	23	8	3
78	92	支配的な	-0.748	-1	21	48	36	5	1
79	43	きつい	-0.820	-1	21	57	27	4	2
79	32	内向的な	-0.820	-1	16	64	27	3	1
81	64	理屈っぽい	-0.838	-1	21	61	23	2	4
82	96	反抗的な	-0.847	-1	24	57	23	3	4
83	29	硬い	-0.865	-1	27	48	30	6	0
84	3	重い	-0.874	-1	28	52	22	7	2
84	94	引込み思案の	-0.874	-1	17	71	18	2	3
86	25	依存的な	-0.901	-1	24	57	25	5	0
87	103	臆病な	-0.982	-1	26	63	16	3	2
88	54	気の短い	-1.000	-1	31	55	21	2	2
89	27	鈍感な	-1.018	-1	36	48	21	5	1
90	52	鈍い	-1.027	-1	35	53	15	7	1
91	86	偏った	-1.036	-1	31	58	18	3	1
92	99	わがままな	-1.045	-1	39	49	15	5	3
93	23	消極的な	-1.063	-1	34	56	16	4	1
93	88	幼稚な	-1.063	-1	36	50	22	2	1
95	49	悲観的な	-1.117	-1	38	54	16	0	3
96	28	閉鎖的な	-1.218	-1	45	51	8	5	1
97	50	ふまじめな	-1.261	-1	47	52	7	4	1
98	14	後ろ向きな	-1.315	-2	53	44	11	2	1
98	62	無知な	-1.315	-2	56	40	11	2	2
100	46	陰気な	-1.333	-2	58	43	2	5	3
101	48	おろかな	-1.360	-2	56	43	9	2	1
102	35	意地悪な	-1.442	-2	67	34	4	4	2
103	16	不親切な	-1.486	-2	72	27	8	2	2
104	40	思いやりのない	-1.505	-2	68	36	4	1	2
105	41	暗い	-1.514	-2	69	34	6	0	2
106	19	無能な	-1.613	-2	82	21	4	2	2

次に、各項目の平均点と最頻値の値をもとに、他者評価で用いられたとされる106個の「ことば」を、肯定的、中立的、否定的の三種類のカテゴリーに恣意的に分けた。つまり、1位「明るい」から36位「思考的な」までを肯定的カテゴリーに、また、37位「道徳的な」から70位「複雑な」までを中立的カテゴリーに、

対人魅力の研究
(肯定的カテゴリー)

Table 2. [positive 群-non positive 群における CPI 人格特性との t 検定有意差表]

ord. No.	word	Do	Cs	Sy	Sp	Sa	We	Re	So	Sc	To	Gi	Cm	Ac	Ai	Ie	Py	Fx	Fe
1	13 明るい																		
2	12 思いやりのある																		
3	15 優しい																		
4	17 寛大な													※		※			
5	60 さわやかな	+									※								
6	57 素直な										※			※					
7	44 親切な										+			+				-	
7	58 多才な																	+	
9	18 陽気な							+		+				※					-
10	47 有能な																		
11	104 温和な										+			※					
12	61 おだやかな										+			+					
13	42 前向きな														+		+		
14	51 積極的な	※	※	※	+	※	+							+	+	+			
15	20 かしこい																		+
16	93 純粋な										+								
16	102 気さくな		+		+		+							+					※
18	72 根性のある										※	+		※					
19	91 粘り強い										+								
20	1 柔らかい														+				=
21	80 清らかな										※			※					+
22	97 柔軟な																		
22	53 自立的な														+				-
24	4 外向的な	※	+	※	+		+			+	+			※			※	+	
25	85 社交的な		+	+	※	+	+			+	+				※		※		
26	55 敏感な																		
27	56 開放的な				+		+												
28	89 勤勉な													※					
29	66 天才的な						※												+
30	65 素朴な										+								
31	22 まじめな										+			※					
32	21 楽観的な											-							
33	26 気の長い												-						
34	98 騒がしい																		
35	24 鋭い																		
36	83 思考的な													+					

注1) +は、t 値が正の値で、5%水準で有意差があったことを示す
 ※は、t 値が正の値で、1%水準で有意差があったことを示す
 -は、t 値が負の値で、5%水準で有意差があったことを示す
 =は、t 値が負の値で、1%水準で有意差があったことを示す

注2) Do は支配性, Cs は社会的成就能力, Sy は社交性, Sp は社会的安定感, Sa は自己満足感, We は幸福感, Re は責任感, So は社会的成熟性, Sc は自己統制力, To は寛容性, Gi は自己顕示性, Cm は社会的常識性, Ac は順応的な成就欲求, Ai は自立的な成就欲求, Ie は知的能力, Py は共感性, Fx は融通性, Fe は女性的傾向を表す

(中立的カテゴリー)

Table 3. [positive 群-negative 群における CPI 人格特性との t 検定有意差表]

ord. No.	word	Do	Cs	Sy	Sp	Sa	We	Re	So	Sc	To	Gi	Cm	Ac	Ai	Ie	Py	Fx	Fe
37	77 道徳的な												※						-
38	68 繊細な											-				-			-
39	63 負けず嫌いな					※										-			-
40	33 革新的な																		-
41	76 計画的な																		=
42	105 直観的な																		-
43	74 大胆な									-									-
44	36 客観的な																		-
45	70 おとなびた																		-
46	87 合理的な																		-
47	106 感覚的な																		-
48	81 涙もろい																		-
49	78 安定志向の																		-
50	6 静かな	-			-					-									-
50	71 怖いもの知らず																		-
52	100 凝り性の					+													-
53	10 現実主義の																		-
53	45 厳格な																		-
55	7 お人好しの																		-
56	37 快楽的な																		-
57	73 珍しい																		-
58	79 感傷的な					+					+								-
59	84 感情的な																		-
60	75 夢想的な									-	=								-
60	82 抜け目のない																		-
62	69 傷つきやすい																		-
63	38 理想主義の																		-
64	39 おしゃべりな																		-
65	9 禁欲的な																		-
66	8 主観的な					※													-
67	67 頑固な																		-
68	95 哲学的な	+																	-
69	5 保守的な	※																	-
70	30 複雑な																		-

注3) +は、t 値が正の値で、5%水準で有意差があったことを示す
 ※は、t 値が正の値で、1%水準で有意差があったことを示す
 -は、t 値が負の値で、5%水準で有意差があったことを示す
 =は、t 値が負の値で、1%水準で有意差があったことを示す

注4) Do は支配性, Cs は社会的成就能力, Sy は社交性, Sp は社会的安定感, Sa は自己満足感, Wb は幸福感, Re は責任感, So は社会的成熟性, Sc は自己統制力, To は寛容性, Gi は、自己顕示性, Cm は社会的常識性, Ac は順応的な成就欲求, Ai は自立的な成就欲求, Ie は知的能力, Py は共感性, Fx は融通性, Fe は女性的傾向を表す

(否定的カテゴリー)

Table 4. [non negative 群-negative 群における CPI 人格特性との t 検定有意差表]

ord. No.	word	Do	Cs	Sy	Sp	Sa	We	Re	So	Sc	To	Gi	Cm	Ac	Ai	Ie	Py	Fx	Fe
71	90 攻撃的な							-											-
72	11 無口の																		
73	2 単純な																		
74	34 騒がしい																		-
75	101 飽き性の										*			*					
76	31 軽い							-					-						
77	59 利己的な							=						-					
78	92 支配的な	+					+								-				=
79	43 きつい							=											
79	32 内向的な										+								+
81	64 理屈っぽい							-						-					
82	96 反抗的な							=	=					=					+
83	29 硬い																		
84	3 重い	+																	-
84	94 引込み思案の														-				
86	25 依存的な							-						-					
87	103 臆病な							-						-					
88	54 気の短い							=	-					=					*
89	27 鈍感な													-					
90	52 鈍い																		
91	86 偏った							-	-					-					-
92	99 わがままな							=						-					
93	23 消極的な													-					
93	88 幼稚な							=						-					
95	49 悲観的な																		
96	28 閉鎖的な																		
97	50 ふまじめな							-											+
98	14 後ろ向きな																		
98	62 無知な																		-
100	46 陰気な													=					
101	48 おろかな													-					
102	35 意地悪な							-						-					-
103	16 不親切な							=						-					=
104	40 思いやりのない							=						=					
105	41 暗い											+							
106	19 無能な							=						-					

注 5) +は、t 値が正の値で、5%水準で有意差があったことを示す

※は、t 値が正の値で、1%水準で有意差があったことを示す

-は、t 値が負の値で、5%水準で有意差があったことを示す

=は、t 値が負の値で、1%水準で有意差があったことを示す

注 6) Do は支配性, Cs は社会的成就能力, Sy は社交性, Sp は社会的安定感, Sa は自己満足感, Wb は幸福感, Re は責任感, So は社会的成熟性, Sc は自己統制力, To は寛容性, Gi は自己顕示性, Cm は社会的常識性, Ac は順応的な成就欲求, Ai は自立的な成就欲求, Ie は知的能力, Py は共感性, Fx は融通性, Fe は女性的傾向を表す

Table 5. [対語の平均値差異スコアと spearman 相関係数]

対 語	平均値の差	spearman 相関係数
明るい (1)ー暗い (105)	3.009	-0.458***
思いやりのある (2)ーない (104)	2.991	-0.589***
有能な (10)ー無能な (106)	2.856	-0.359***
親切な (7)ー不親切な (103)	2.757	-0.598***
陽気な (9)ー陰気な (100)	2.595	-0.426***
前向きな (13)ー後ろ向きな (98)	2.432	-0.653***
かしこい (15)ーおろかな (101)	2.333	-0.468***
優しい (3)ーきつい (79)	2.270	-0.357***
積極的な (14)ー消極的な (93)	2.117	-0.362***
開放的な (27)ー閉鎖的な (96)	1.918	-0.333***
まじめな (31)ーふまじめな (97)	1.838	-0.234*
柔らかい (20)ー硬い (83)	1.730	-0.118
自立的な (23)ー依存的な (86)	1.730	-0.381***
敏感な (26)ー鈍感な (89)	1.721	-0.202*
楽観的な (32)ー悲観的な (95)	1.685	-0.267**
外向的な (24)ー内向的な (79)	1.622	-0.318***
気の長い (33)ー気の短い (88)	1.514	-0.309**
鋭い (35)ー鈍い (80)	1.505	-0.363***
寛大な (4)ー厳格な (53)	1.396	-0.055
お人好しの (55)ー一意地悪な (102)	1.374	0.003
革新的な (40)ー保守的な (69)	0.874	0.033
静かな (50)ー騒がしい (34)	0.811	-0.359
客観的な (44)ー主観的な (66)	0.622	-0.243*
おしゃべりな (64)ー無口の (72)	0.391	-0.045
快楽的な (56)ー禁欲的な (65)	0.252	0.010
理想主義の (63)ー現実主義の (53)	-1.198	0.163
重い (84)ー軽い (76)	-0.081	0.305**
単純な (73)ー複雑な (70)	-0.171	0.038

() 内は平均値の順位, *は $p < .05$, **は $p < .01$, ***は $p < .001$ を表す

りに、71位「攻撃的な」から106位「無能な」までを否定的カテゴリーに分類した。さらに、各カテゴリーの各「ことば」項目において、その回答状況から(註)その「ことば」に肯定的に反応した群と否定的に反応した群に二分した。これらの二群間で、CPIの18の人格特性について有意差が見られるかどうか

かを知るために、 t 検定が行われた (Table 2, Table 3, Table 4 参照)。

また、対語56語 (28対) の差異スコア (対語の平均値差) と spearman の相関係数を表したのが、Table. 5 である。つまり、この対語間において、有意な負の相関係数があるということは、この対語で示される「ことば」次元が対極性を持つということである。例えば、「客観的な」と「主観的な」の間に負の相関があれば、「客観的な」を positive と判断し「主観的な」を negative に判断する人もあれば、逆に「主観的な」を positive と判断し「客観的な」を negative に判断する人もいるということである。この「ことば」次元の一方の極が positive か negative かに判断されるかは人によって異なるが、いずれにせよ両方の極が互いに反対の意味をなしていることを示す。また、差異スコアが大きくかつ負の相関があれば、その「ことば」次元においての大方の人の好悪の判断が一致していると言える。例えば、「明るい」と「暗い」の平均値に大きな差異が見られ、かつ負の相関があれば大方の人にとって、一方の「ことば」に対してのみ positive な判断が、もう一方の「ことば」に対してのみ negative な判断が示されていることになる。以上のような立場から、対語で得られた「ことば」次元が好悪感情の生起においてどのような構造をなしているのかを調べることも目的のひとつとした。

3. 結 果

○「ことば」による他者評価に対する好意度の順位

他者からの評価としての「ことば」の好意度の順位は、Table 1 の通りである。

○「ことば」による他者評価に対する好意度と人格特性の関連について

好意度の順位の決め手である平均点をもとに、恣意的に 106 個の「ことば」を肯定的、中立的、否定的な三つのカテゴリーに分け、それぞれの「ことば」と CPI の18の人格特性との関連をまとめたのが、Table 2, Table 3, Table 4 である。解釈をわかりやすいものにするために、以下のように各人格特性から、まとめてみる。

(1)支配性 (Do)—支配性の高い人は、支配性の低い人と比べて「積極的な」「外向的な」「哲学的な」「保守的な」「支配的な」「重い」と評価する人に対する好意度が高かったと言える。

(2)社会的成就能力 (Cs)—社会的成就能力の高い人は、社会的成就能力の低い人と比べて「さわやかな」「積極的な」「気さくな」「柔軟な」「外向的な」「社交的な」と評価する人に対する好意度が高く、「静かな」と評価する人に対する好意度は低かったと言える。

(3)社交性 (Sy)—社交性の高い人は、社交性の低い人に比べて「積極的な」「外向的な」「社交的な」「開放的な」と評価する人に対して、好意度が高かったと言える。

(4)社会的安定感 (Sp)—社会的安定感の高い人は、社会的安定感の低い人と比べて「積極的な」「気さくな」「外向的な」「感傷的な」と評価する人に対する好意度が高く、「静かな」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(5)自己満足感 (Sa)—自己満足感の高い人は、自己満足感の低い人に比べて「積極的な」「社交的な」「開放的な」「天才的な」「負けず嫌いな」「凝り性の」「主観的な」「支配的な」と評価する人に対する好意度が高かったと言える。

(6)幸福感 (Wb)—幸福感の高い人は、幸福感の低い人に比べて「陽気な」「気さくな」「外向的な」「社交的な」と評価する人に対する好意度が高く、「理想主義の」「禁欲的な」「複雑な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(7)責任感 (Re)—責任感の高い人は、責任感の低い人に比べ「寛大な」「素直な」「親切な」「温和な」「おだやかな」「純粋な」「根性のある」「粘り強い」「清らかな」「勤勉な」「素朴な」「まじめな」と評価する人に対する好意度が高く、「感情的な」「夢想的な」「攻撃的な」「軽い」「利己的な」「きつい」「理屈っぽい」「反抗的な」「依存的な」「臆病な」「気の短い」「偏った」「わがままな」「幼稚な」「ふまじめな」「意地悪な」「不親切な」「思いやりのない」「無能な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(8)社会的成熟性 (So)—社会的成熟性の高い人は、社会的成熟性の低い人と

比べて「さわやかな」「陽気な」「根性のある」「外向的な」「社交的な」と評価する人に対する好意度が高く、「直観的な」「静かな」「夢想的な」「哲学的な」「反抗的な」「気の短い」「偏った」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(9)自己統制力の高い人は、自己統制力の低い人と比べて「内向的な」と評価する人に対する好意度が高く、「楽観的な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(10)寛容性 (To)―寛容性の高い人は、寛容性の低い人と比べて「外向的な」「社交的な」「感傷的な」「飽き性の」と評価する人に対する好意度が高く、「繊細な」「理想主義の」「禁欲的な」「頑固な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(11)自己顕示性 (Gi)―自己顕示性の高い人は、自己顕示性の低い人と比べて「気の長い」「暗い」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(12)社会的常識性 (Re)―社会的常識性の高い人は、社会的常識性の低い人に比べて「素直な」「親切な」「陽気な」「温和な」「おだやかな」「積極的な」「気さくな」「根性のある」「柔らかい」「清らかな」「自立的な」「外向的な」「勤勉な」「まじめな」「思考的な」「道徳的な」と評価する人に対する好意度が高く、「主観的な」「複雑な」「軽い」「利己的な」「支配的な」「理屈っぽい」「反抗的な」「引込み思案の」「依存的な」「臆病な」「気の短い」「鈍感な」「偏った」「わがままな」「消極的な」「幼稚な」「陰気な」「おろかな」「意地悪な」「不親切な」「思いやりのない」「無能な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(13)順応的な成就欲求 (Ac)―順応的な成就欲求の高い人は、順応的な成就欲求の低い人に比べて「さわやかな」「前向きな」「積極的な」「社交的な」と評価する人に対する好意度が高く、「消極的な」「理想主義の」「禁欲的な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(14)自立的な成就欲求 (Ai)―自立的な成就欲求の高い人は、自立的な成就欲求の低い人と比べて「飽き性」と評価する人に対する好意度が高く、「繊細な」

「負けず嫌いな」「理想主義の」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(15)知的能力 (Ic)—知的能力の高い人は、知的能力の低い人と比べて「さわやかな」「有能な」「前向きな」「積極的な」「気さくな」「外向的な」「社交的な」「天才的な」と評価する人に対する好意度が高く、「頑固な」「引込み思案の」「偏った」「消極的な」「思いやりのない」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(16)共感性 (Py)—共感性の高い人は、共感性の低い人と比べて「外向的な」「主観的な」と評価する人に対する好意度が高く、「親切な」「感覚的な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(17)融通性 (Fx)—融通性の高い人は、融通性の低い人と比べて「きつい」「理屈っぽい」「気の短い」「ふまじめな」と評価する人に対する好意度が高く、「温和な」「柔らかい」「自立的な」「道徳的な」「繊細な」「負けず嫌いな」「計画的な」「傷つきやすい」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

(18)女性的傾向 (Fe)—女性的傾向の高い人は、女性的傾向の低い人と比べて「かしこい」「清らかな」と評価する人に対する好意度が高く、「負けず嫌いな」「怖いもの知らずな」「凝り性の」「主観的な」「保守的な」「攻撃的な」「騒がしい」「支配的な」「偏った」「意地悪な」「不親切な」と評価する人に対する好意度が低かったと言える。

○対語の平均値差異スコアと spearman 相関係数 (Table 5)

「明るい—暗い」「思いやりのある—思いやりのない」「有能な—無能な」の次元を筆頭に「鋭い—鈍い」の次元までが、対極の構造をなしていることが明らかになった（「柔らかさ」を除く）。また、「柔らかい」という評価に対して好意の感情を抱く人は、必ずしも「硬い」という評価に対して嫌悪の感情を抱くとは限らないということが明らかになった。同様に「寛大な—厳格な」「革新的な—保守的な」などの次元では、対極の構造をなしていないことがわかった。特殊な型としては「軽い—重い」の次元があげられる。「軽い」と「重い」には正の相関関係があり、一方を否定的（肯定的）に認知する人は、もう一方

も否定的（肯定的）に認知する傾向が見られた。また、「客観性—主観性」次元は、負の相関を持つと共に、平均値差が非常に少ないことから、「客観的な」を肯定的に感じる人は「主観的な」を否定的に感じ、「客観的な」を否定的に感じる人は「主観的な」を肯定的に評価していると思われる。この「ことば」で示される主観性と客観性は、人間の基本的態度の類型であることを強調するものであろう。

4. 考 察

他者から社会的に望ましい「ことば」で評価された場合には、相手に対する好意の感情が生まれ、社会的に好ましくない「ことば」で評価された場合には、相手に対する嫌悪の感情が生まれると言える（Table 1 参照）。一般に言うならば、肯定的な評価は相手からの好意を引き出すことができるので対人魅力の一要因であると言える。たいていの人は何らかの形で自己を positive な存在として評価したいし、また評価されたいという心理があるのだろう。他者から望ましい存在として評価されたと認知した際に、好意的な対人感情が生まれやすいということから、これは一般に好意の返報性を示している。人格特性と「ことば」との関連性を人格特性の方から見ると、その人格特性を具体的に反映するような「ことば」で評価された場合には好意の感情が生まれやすく、その人格特性と逆の特性を表しているような「ことば」で評価された場合には嫌悪の感情が生まれやすいのではないかということである。つまり、自己概念と一致する評価に対しては好意の感情で対応し、自己概念と一致しない評価に対しては嫌悪の感情で対応していることがわかる。これらのことは、まさしく自己整合説を支持するものであろう。従来、好意の相互性がなぜ生じるのかという問をめぐって自尊感情説と自己整合性説の間で、議論が活発に行われてきた。Jones (1973) は、これらの対立的議論が、実験手続きの相違によって起こされると述べている。また Regan (1976) は、自尊感情説は他者からの評価がなにに対して行われるかどうかは問題でなく、他者が自分を高く評価したか低く評

価したかにあるが、自己整合説では本人が当面直面している問題点（特性など）そのものについての評価が他者によって行われたときでないとし生じないのではないかという仮説を提出し、それを実験によって証明した。本研究の結果から見ると、自己整合説が支持されるが、Regan が仮定したように、自己整合性説は本人の特性についての評価が他者によって行われた時に生じると考えられるなら本研究の実験手続きによって、自己整合説が支持されるのは不思議ではない。つまり、本研究結果は自己整合性説を支持したが、自尊感情説を否定するものではない。

人格特性の見地から述べると、社会的常識性の欠落しているものは、肯定的カテゴリーの多くの「ことば」に対して、嫌悪の感情で応えることが多く、否定カテゴリーの多くの「ことば」に対して、好意の感情で応えることが多かったようである。この「ことば」の順位づけが、社会的望ましさの評価に対応すると思われるゆえに、社会的常識性の欠落しているものは、逸脱した価値規範をもって対人態度を形成していると思われる。責任性においても、これと同様の傾向が見られたが、CPI で測定できる責任性とは、社会的常識性とよく似た構成概念を含んでいるものと考えられる。また、柔軟性の高いものは、肯定的カテゴリーの一部の「ことば」に対して、嫌悪の感情で応えることがあり、否定的カテゴリーの一部の「ことば」に対して、好意の感情で応えることがあった。このことから、柔軟性とは、一般の価値規範より認知的枠組みがやや広く、時には一般の人々と違った対人態度を形成することが可能な特性と言えよう。このようにして見ると、「ことば」に対する対人感情の表れ方は、ある種の性格を反映しているのかもしれない。

また、自己を評価した他者への好悪感情の起りかたの度合いにおいて、「明るさ」「思いやり」「有能さ」「親切さ」次元などが、強く影響していることが明らかにされた（Table 5 参照）。山本ら（1982）は、青年の自己概念について、大学生に調査を行い、社交、知性、優しさなどの性格的側面を見い出している。これらの諸側面における評価は、対人感情やその後の対人態度に影響するので、とくに重要な側面であると言えるだろう。

結論として、他者を社会通念上望ましいと思われる「ことば」で評価することは、対人魅力の一要因である。本研究では、初対面およびよく知らぬ間柄という場面設定の下にあった。このような間柄においては、相手を一般に望ましいと考えられている「ことば」で相手を評価することが、相手から好かれる条件であると言えよう。しかしながら、そのような評価が的を得ていない場合には、自己の整合性を保とうとするために、返ってくる対人感情は否定的なものになるであろう。初対面およびよく知らぬ間柄においては、性格的側面に関してどのような自己概念を抱いているのかがわかりにくいために、性格を表す「ことば」でさえ、相手について明言したり断言することを避ける必要がある。

註 肯定的カテゴリーにおいては、+2, +1に回答した者を positive 群とし、0, -1, -2に回答した者を non-positive 群に分けた。同様に中立的カテゴリーでは positive 群(+2, +1)と negative 群(-1, -2)に、また否定的カテゴリーでは non-negative 群(+2, +1, 0)と negative 群(-1, -2)に分けた。

引用・参考文献

- 1) Anderson, N.H. 1968 Likableness Ratings of 555 Personality-Trait Words JPSP p. 272-279
- 2) Aronson, E & Linder, D. 1965 Gain and Loss of Interpersonal Attractiveness JESP p. 156-171
- 3) 遠藤由美 1992 自己認知と自己評価の関係—重みづけをした理想自己と現実自己の差異スコアからの検討— 教育心理学研究 vol.40 p. 157-163
- 4) 斎藤勇編 1987 対人社会心理学重要研究集2 対人魅力と対人欲求の心理 誠心書房
- 5) 斎藤勇編 1988 対人社会心理学重要研究集5 対人知覚と社会的認知の心理 誠心書房
- 6) 斎藤勇 1990 対人感情の心理学 誠心書房
- 7) 笹山郁生 1992 人の印象をもつ 対人心理学の最前線 p. 92-102 サイエンス社
- 8) 対人行動学研究会編 1986 対人行動の心理学 誠心書房
- 9) 中村陽吉 1983 対人場面の心理 UP 選書 東京大学出版
- 10) Heider, F 大橋正夫(訳) 1976 対人関係の心理学 誠心書房